



もしもに備える！ 非常用持ち出し袋



ごあいさつ

致芳コミュニティセンター環境整備部会長 平 博之

東日本大震災から11年が過ぎました。「天災は忘れた頃にやってくる」ということわざの通り、先日福島県沖を震源とした大きな地震が起きました。停電や断水などの大きな被害もなく、本当に良かったと思いましたが、深夜の大きな地震で、不安に思われた方も多くいたのではないのでしょうか。



大きな災害はいつ起きるかわかりません。災害が起き、もしもインフラがだめになってしまったら…。そう考えた時、やはり防災グッズ等の備えがあれば、少しでも安心につながるのではないのでしょうか。

「備えあれば憂いなし」です。この機会に、ご家庭にある非常持ち出し袋の見直しや、まだ準備していないという方は、これを見ながらぜひ準備をしてみましょう。

非常時に備える3ステップ

ステップ
①

0次の備え(いつも携帯)

「非常持ち出し品」として備える物の中から、携帯できそうなものは、いつも使うバックやポケットに入れ身に付けてみよう！

いつでもどこで被災するかわからない災いへの安心感を持ち歩こう。

ステップ
②

1次の備え(非常持ち出し品)

家庭や勤務先…1日の多くを過ごす場所には「非常持ち出し品」を備えよう！

とっさの時に、さっと持ち出して逃げられるコンパクトなバック。

- ・被災の1日、命が安全なところに逃げる時にこれだけは持っていたい、という最低限の備え。
- ・併せて頭、足元を守って逃げられる備えを。
- ・どこに置く？玄関、寝室…持ち出しやすいところに。

ステップ
③

2次の備え(安心ストック)

非常時、ライフラインが途絶え、もしも助けの手が届かなかったとしても、何日間かは自給自足してしのげる物を準備しよう！

- ・キッチンや、押し入れ、ガレージ、物置などに、ケースにまとめ取り出しやすく、持ち運びしやすく。
- ・飲食など消耗品は、少なくとも3日分~備えたい。
- ・ライフラインが止まった家で、被災生活を過ごすことになるかもしれない時に、安心なセット。

ステップ

1 0次の備え(いつも携帯)

ポイント

充電器

携帯電話は連絡手段、情報収集に必須！
いつでも充電できるようにしておく



ポイント

ホイッスル

自分の居場所を知らせるための道具

